

## 塗装する塗る前に・・・

### 【用意しておく便利な物】

#### 1. 使用する塗料

作品の使用目的や、好みに合った塗料を選んでください。

#### 2. 塗装用具

ニスハケをお勧めします。塗り方（P.3参照）によってはウエスも必要です。

#### 3. 塗料に適したうすめ液

塗料容器に適したうすめ液が記載されています。塗装用具を洗うときにも使用します。

#### 4. 研磨道具

240番のサンドペーパーが必要です。空研ぎサンドペーパーを推奨します。

古い塗料を研磨で剥がす場合は、粗い番手のサンドペーパーもご用意ください。

#### 5. ウエス

いらなくなった綿布で代用できます。タオル地は埃が出やすいので避けてください。

#### 6. マスキングテープ

塗りたくない場所を保護するために使います。

#### 7. 新聞紙やビニールシート

周辺汚れ防止に使います。

#### 8. ゴーグル、マスク、軍手やビニール手袋など

塗料の飛び散りによる汚れ防止に使います。

#### 9. 汚れてもよい服装

衣類に塗料がつくと、きれいに落とせません。

### 【塗装を避けた方がいい環境】

**雨天や、湿度の高い曇天、極端に気温が低い日**

（塗料が乾きにくくなります）

※上塗りするニスの塗装手順につきましては、別資料「未塗装木部にニスをハケで塗る場合の塗装手順」をご参照ください。

ステイン塗装は木の吸い込みが止まらないため、未塗装の手順とほぼ同等の工程になります。ニス塗り手順の工程1・木地研磨はステイン塗装の際に行なっておりますので、ニス塗り手順の工程2から開始してください。

## ステイン（着色剤）の塗装手順

ニスには膜を作って木の表面を保護することができますが、ステイン（着色剤）は木に染み込むことで色をつける塗料で、木を保護する力は持っていません。このため、ステインを使う際には「木に塗料が染み込む余地があること」が絶対条件となります。

また、屋内に飾っておくだけの作品であればステインだけを塗って仕上げても問題ありませんが、実用する作品（家具や建具など）の場合は、ステインを塗っただけでは触れた布に色が移ったり、水拭きをすると色が落ちたりすることがあるため、上からニスを塗って保護する必要があります。

和信ペイントにはステインは3種類あり、水性の「ポアーステイン」と「水性オイルステイン」、油性の「オイルステイン」に分かれます。水性のステインはどのニスでも上塗りできますが、油性の「オイルステイン」に水性のニスを上塗りすることはできません。上塗りに使うニスとの相性を考えて、ステインを選んでください。

### 1. 素地調整

未塗装木部の場合は、240番の空研ぎサンドペーパーを使って、木目に沿って研磨します。カンナをかけてある木材は表面がきれいに見えますが、塗料が染み込みにくい状態になっているので、しっかり研磨してください。

古い塗料を剥がす場合は、240番のサンドペーパーで根気よく研磨する方法もありますが、粗い番手のサンドペーパーを使った方が研磨効率が上がります。

粗い番手のサンドペーパーでまずは塗料を剥がし、木地がだいたい出てから改めて240番のサンドペーパーで表面を調えるてください。なお、60番→240番など、一気に番手を切り替えるよりは、60番→150番→240番など、中間の番手を挟んで徐々に研磨の目を細かくした方が、傷がより目立ちにくくなります。

木を水拭きしたときに目立つ研磨傷は、塗装後も目立つ可能性がありますので、木目に沿って丁寧に研磨してください。

研磨が終わったら、研磨カスをきれいに取り除きます。

### 2. ステインをよく攪拌する

色の成分が沈んでいるため、塗装前にしっかり混ぜておきます。混ぜ方が足りないと、

本来とは違う色に仕上がってしまいます。

ステインは塗り重ねることで色を濃くすることはできますが、色を薄く変化させることはできません。濃い色にしたくない場合は、あらかじめ適したうすめ液で薄めておいてください。

また、ステインは「木目を生かす」塗料のため、木目が見えなくなるほど塗り重ねてしまうと顔料（色の成分）が表面に浮いてしまい、ニスとの密着性が悪くなります。木目を隠したい場合は、ステインの使用は避けてください。

### 3. 塗装1回目

ステインには複数の塗り方があります。

一つ目は「ハケで塗ってそのまま乾かす」方法です。色をしっかりつけたい場合に適していますが、乾燥時間が少し長くなります。木目に沿って塗装してください。

二つ目は「ステインをウエス（綿布）に染み込ませてすり込む」方法です。淡い色に仕上げたい場合に適しています。なお、ウエスで拭き上げる塗装手順をワイピングと呼びます。ワイピングする場合は木目の向きを気にする必要はありません。

三つ目は「ハケで塗ったあと、乾く前にウエスで拭き取る」方法です。ハケ塗りとワイピングを組み合わせることで、広い面積でも効率よく、色ムラを抑えて着色することができます。

### 4. 完全に乾かす

容器に記載されている乾燥時間は20℃の環境で乾かした場合の目安であり、塗りつけた量が多い場合や、湿度が高い場合などには表記以上に時間がかかることもあります。

※ステインはほとんどの場合、塗った直後の濡れているときと、乾いているときで色が変わります。乾くと白ぼけた色合いに見えますが、ニスを上塗りすると濡れた状態の色で安定します。

### ワンポイントアドバイス

テーブルの天板など、特に平滑性が必要な作品を塗装している場合は、2回目を塗装する前に400番のサンドペーパーでごく軽く研磨しておくこと、ニス塗りしたときに毛羽立ちを抑えることができます。研磨が強すぎると木地の色が出てしまいますので、そっと撫でる程度の力加減で行なってください。

※この段階での研磨は必須工程ではありません。色落ちしないことを優先したい場合は研磨せずに2回目の着色を行なってください。また、色が薄くなったり木地の

色が出る可能性もありますので、ステインを塗り重ねない方は研磨をしないでください。

## 5. 塗装 2 回目

（1回の着色で好みに合った場合は、無理に2回塗る必要はありません）

基本的な注意点は工程3と同じです。一部の色が沈んでいる場合がありますので、もう1度混ぜてから塗装してください。

1回塗りでも着色されていますが、2回塗ることで色ムラを抑えることができます。

塗った直後の色合いを見て、「もっと色を濃くしたい」場合は、乾燥後にもう1度塗装してください（好みの色になるまで繰り返し）。

## 6. 完全に乾かす

基本的な注意点は工程4と同じです。

ニスを上塗りする前は、特に十分な乾燥時間を取ってください。乾燥が足りない状態でニスを塗ると、乾きにくくなる場合があります。